



編集・発行
 宮城県宮城野高等学校
 同窓会事務局
 〒983-0021
 仙台市宮城野区田子2-36-1
 第4号
 2001年5月1日発行
 題字: 田代ひとみ先生

三月十七日、宮城野高
 校体育館において第一回
 同窓会総会が行われました。
 宮城野高校が創立され
 て六年が過ぎ、(二回
 生である僕が卒業して二
 年がたち)、やっと初め
 ての同窓会総会が開かれ
 ることになりました。

高校生の頃にはみんなだま
 とまって何か一つのことを行
 うということはあまりなかつ
 たと思います。そのような生
 活をおくってきた中で、一年
 以上も前から同窓会幹事を中
 心にして、着々と準備を進め
 てきました。実際のところ、
 会長をはじめとする在仙の卒
 業生を中心にして準備が行わ
 れ、僕のように宮城県から離
 れた幹事は、ほんの少ししか
 手伝うことができずにいまし
 ました。そういった状況の中で、
 話をまとめ総会の実行に移せ
 たのは、やはり宮城野生の様々
 な力が素晴らしいことを表し
 ているのだと思います。当
 日には式の開始時刻のずいぶ

ん前から多くの卒業生が集ま
 り、友人との久々の再会を楽
 しんでいるようでした。また、
 かつて宮城野高校にいらっしやっ
 た先生がたも総会の方にご出
 席なさって、卒業生も先生方
 の姿を拝見できてうれしく思っ
 たのではないのでしょうか。総
 会の方は次第通り、順調に進
 んでいきました。途中、手違い
 等の混乱もありましたが、そ
 れは最初の総会ということだ
 ら、また本当に自分達で作ら
 なければならない気がして、

まあよかつたのではないかと
 思います。よい意味で自分た
 ちの手で会が行われているとい
 うことを感じました。僕はこ
 の総会の中で、何か正式な会
 である緊張感がある中で、言
 葉では表しにくい安堵感のよ
 うなものがあったと思います。
 伝統や歴史といったものが存
 在しない中で高校生活を送り
 ましたが、そのような状況の
 中で受け継がれた「何か」が
 あったように僕は感じました。
 (濱野雄二)

こんにちは、同窓会長の田畑
 です。現在仙台在住。大学4年
 生、独身。背は中くらい。眼鏡
 をかけて、ちょっと
 おなかの気になる人
 物が私です。どうぞ
 よろしく。

●会長誕生秘(?)
 話のこと
 元凶、もといきつ
 かけは英語科幕田教
 諭。

受験を控え
 た高3の秋の
 ことです。彼
 女はおっしや
 いました。
 「田畑君、お
 願いがあつたよ。」
 「・・・なんでですか?」
 「同窓会長やってくれない?」



俺が会長

「は?」
 「受験に合格したらでいいから」
 おいおい、受験生になんて酷な
 話を。しかしまあどうせ
 大丈夫だろう(なにがだ
 ん)、と軽い気持ちでその
 賭けに乗り。結果がこれ。
 ま、いいんだけどね。

●さて、これから、この
 と。3月のパーティーの
 時に、沖繩の大学に行っ
 ている同窓生から、
 「ぜひ沖繩に支部
 を作りたいよ。」
 と、言われました。
 すごく嬉しかつ
 ました。こうやって広
 がっていく「つな
 がり」を大事にできる、そんな
 同窓会になれば、なさねば、と
 思う今日この頃です。

「・・・なんでですか?」
 「同窓会長やってくれない?」

懇親パーティーにて

国際ホテルで行われたパーティーの受付を担当した僕は数々やってくるなつかしい顔を見て、様々な思いをいだきました。高校の頃から全然変わってないように思える人、また反対にずいぶん変わったなと思う人、本当にいろいろいる。自分もどう思われている

かはわかりませんが、パーティーへの飛び入り参加の人も含め、人数の総計は四百人を越えたというので僕はともうれしく思いました。でも二回生の人数は他の一回生、三回生に比べると少ないような気もしましたが、会場内では抽選り、友人や先生方との再会を楽しみ会話も弾んで盛り上がり

たようでした。高校を卒業し、それぞれが自分の進むべき道へ進んだわけですが、このような場を持ち、忙しいそれぞれの生活の中で自分の高校生生活を振り返り、これからの自分の生活への新たなステップとすることができたのではないかと思います。

(濱野雄一)

ENJOY PARTY



『ドキドキ』

とうとう来ちゃったよー。待ちに待った同窓会パーティーノミんな結構変わってるんだろーな。けど、そう思って1ヶ月も前から卒業アルバム引つ張り出して予習してきたから、みんなの顔と名前はバッチリ一致してるハズ？一週間前ともなると、本当に大変だった。ふと同窓会を想像してはドキ

ドキ、ワクワク。自転車で乗っては、ドキドキ、ワクワクってな感じ。

で、とうとうその、パーティー会場のトビラを開いた。そこに広がる世界はこの世とは思えない景色だった。(いや、好い意味でね。)湧き上がる興奮、はちきれんばかりの熱気。懐かしい。高校の時と変わらぬ生き生きとした友人たち。「おー、久しぶり。元気だった？」

今何してんの？
「おー、元気、元気。」

久しぶりに会った親友の元気な顔をみると素直に嬉しいと思える。僕は、とにかくはしゃいだ。はしゃいで、はしゃいで、はしゃぎまくった。昔集めた宝物にふと、そして次から次に出会えた気分だった。あの熱き日々がデジャヴのように目の前をよぎって行った。
(菅原康之)

『食器の一日』 アフター九

語るホテル従業員

裏グチ。
ちよつと一息、ブレイクタイム☆頭を柔らかくして読んで下さい。

食器棚の中にて。

A「今日も疲れたなあ。」

B「ずっと両手両足広げて料理をのせてるからな。」

A「人間にはわからんだろうなあ。」

B「なあ。」

A「労働の後の食器洗い機は最高なんだけども。」

B「でも俺最近疲れが取れないんだよ。」

A「今忙しいせいだよ。」

B「肩こりがひどいんだ。」

A「うわっ。本当だ。やばいよ、お前。ヒビ入ってるもん。」

B「明日バイト休んで針行ってくるわあ……。」

A「それがいいよ。」

オマケ・食器洗い機のうた。

フル稼働

今日も俺はフル稼働

多少汚れは落としてくれよ

アカギレつらいの

知ってるけどさ……☆

(佐藤志乃)

やり慣れている仕事とはい

え疲れました、ホント。「ホテルサービスの基本は笑顔だ」とよくいわれてるんですが、私もそうすべく笑顔で皿やグラスをお下げしていました。

でも難しいんですよ、これが。最初はにこやかに「失礼します」みたいな具合で出来るんですが、段々顔が引きつってきて、しまいいは無表情でやったりして。皆様が興奮めなならないよう、気をつけてお下げしていましたがどうしてかぶつかってしまいます。

ぶつかって怒ったりしない皆様はいいお客様でした。ホメ殺しじゃないですよ、たぶん。でも皆様の同窓パーティーを見ていて「若いっていいなあ」と思いました。最後に、ストレスがたまってくると、悪気があってやってくるわけじゃないのにやってしまうことってあるんですよ。「あれ？俺のグラスどこいった？」とお探しになっていた方、大抵は「もうどれでもいいや」と適当に済ませて頂けたかと思うんですが、持っていたのは私です。

(下山貴之)

平成十年三月、会員相互の親睦と母校の発展を助成することを目的として設立された同窓会は今年卒業した第四回生二百七十七名を加えて、総数一千百七十七名となる組織となりました。ここに、総会が設立後初めて開催されますことは母校にとってもこの上ない喜びであります。総会の開催を期に、卒業文集の性格だった「たんぼ」が第四号より真の同窓会会報として発行されます。これも誠に喜ばしい限りです。今後、同窓会が会報の発行はもとより、目的を達成するための諸事業を

三月十七日は驚きの日でした。四百人を超す同窓生が懐かしの母校に、そして仙台国際ホテルに集まったのですから。

七年前の今頃、スタッフ五人は、県庁十六階西端の小部屋で学校づくりを始めました。

入学してきた人たち一人ひとりが輝く学校、一人ひとりが自由で伸びやかに振る舞い、それでいて全体の調和が素晴らしい学校、一人ひとりが未来へ向けて、日々歩みを進める学校、こんな学校を実現しようとしていました。

一回生が入学、二回生が入学、三回生が入学。あな

平成十年三月、会員相互の親睦と母校の発展を助成することを目的として設立された同窓会は今年卒業した第四回生二百七十七名を加えて、総数一千百七十七名となる組織となりました。ここに、総会が設立後初めて開催されますことは母校にとってもこの上ない喜びであります。総会の開催を期に、卒業文集の性格だった「たんぼ」が第四号より真の同窓会会報として発行されます。これも誠に喜ばしい限りです。今後、同窓会が会報の発行はもとより、目的を達成するための諸事業を

三月十七日は驚きの日でした。四百人を超す同窓生が懐かしの母校に、そして仙台国際ホテルに集まったのですから。

七年前の今頃、スタッフ五人は、県庁十六階西端の小部屋で学校づくりを始めました。

入学してきた人たち一人ひとりが輝く学校、一人ひとりが自由で伸びやかに振る舞い、それでいて全体の調和が素晴らしい学校、一人ひとりが未来へ向けて、日々歩みを進める学校、こんな学校を実現しようとしていました。

一回生が入学、二回生が入学、三回生が入学。あな

初代校長 八巻 一雄



『蒲公英』創刊

てせよに刊

それにしても、三月十七日は驚きの日でした。

たがたは、新しいコンセプトに基づくこの学校に戸惑いながらも、すぐに学校の担い手、創り手は自分たちだということに気づき、ダイナミックに、そして細心に活動しました。先生方は、いち早くこの学校を理解し、その理想を実現するために尽力

第二代校長 石田 昌彦

同窓会の活性化

に思う



深化・活性化させていくことを期待するものです。同窓生が社会に責務を持つ社会人になったとき、宮城野高校を卒業したという同窓意識が一人ひとりの心の中に涵養され、同窓意識が心の奥底に定着することでしょう。皆さんは、時代の経過と共に、

生活する地域、あるいは活躍する職域に同窓生という仲間意識で結ばれた支部組織を結成すると思います。親睦交流や、情報交換、相互支援が密に行われ、宮城野高校のOG、OBとしての絆が更に深まるでしょう。

自由と個性を尊び、自主性、自発性を重んずる校風は根付きつつあります。規制・制約からの自由、自己表現の自由はもとより、自己をどう実現するか、何を創造するかという「創造の自由」が時代を越えて継承されたとき、本校の校風と伝統となることでしょう。

平成13年度 同窓会役員

会長	田畑 洋行(1回生)
副会長	赤間 成充(1回生)・石田 直子(1回生) 一場 ゆう子(1回生)・中井 紀子(2回生) 大沼 美恵(3回生)
常任幹事	菅原 康之(1回生)・平山 奈奈枝(1回生) 菅原 恵美(1回生)・榎原 裕仁(2回生) 福田 友美(2回生)・坂本 英子(2回生) 佐藤 志乃(3回生)・渋谷 大輔(3回生) 横田 奈緒(3回生)・大場 裕也(4回生) 菊地 哲平(4回生)・齋藤 千恵子(4回生)
監事	佐々木 千聡(1回生)・松本 明子(3回生)
事務局	阿部 真奈美(1回生)・吉田 友香(1回生)
	本校総務部職員

平成13年度 ホーム幹事

1回生	伴田 さち・佐々木 隼・及川真知子・佐々木麻美 青野 友紀・佐藤 良平・江川 青峰・坂口真知子 武田 尚子・伊藤 仁繪・久保田栄紀・武藤 陽 高橋 文・佐野えりか
2回生	内田 真奈・堀川 ゆき・岡 克典・山口 夏 山田 武志・佐々木淳也・高橋 聖蔵・内藤さや香 平山 由佳・佐藤 彩子・岩井 英晃・中村 幸美 山田 佳代・中嶋 貴幸・草野 亜季・柴生 彰 濱野 雄一
3回生	太田 美香・佐藤由香理・菅原美智子・虻川 恵 大友 克浩・軽部 美香・田中 雅・伊藤美由希 鈴木 彩・下山 貴之・及川 聡子・早坂 春美 遠藤 舞
4回生	佐藤 彩・佐藤麻友子・平松 紀子・門脇 裕香 小梨 史絵・佐藤 寛和・関口 恵・駿河まりえ 鎌田 佳史・伊藤 綾・高橋亜矢子

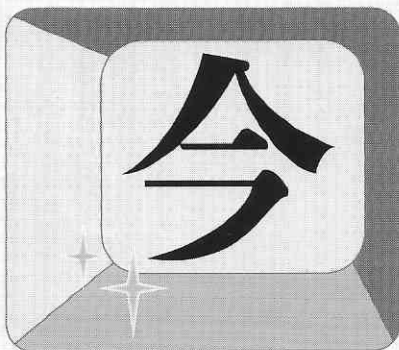
授業の思い出

多賀 努

宮城野高校での倫理の授業について思い浮かぶままに。

倫理社会の教員として私は宮城野に採用されましたが、赴任した学校のカリキュラムの関係で政経や歴史を担当することが多く、宮城野の普通科と美術科の一回生に倫理の授業を始めた頃はかなり緊張していました。

初代校長の八巻先生は公民科の先輩で、私が初任のころには社会科研究会で助言をいただいた



ウチの学校

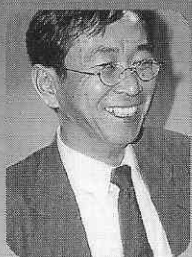
那須 晃

新しく赴任してきた先生が「ウチの学校では別のやり方をしました」などと言うときの「ウチの学校」とは前任校のことを指している。実はこれはある意味禁句で、新しい職場に入っ

たこともありました。

その校長先生から赴任してすぐにアメリカの社会科学教科書を一冊渡されました。学説の説明はほとんどなくて、日常行動を例にとつて記述された心理学・社会学分野の教科書でした。日本の教科書とはかなり違います。単元の最後に「これ以上の勉強をしたい人はA研究所かB学会に連絡しなさい。」というような案内が必ずついていたことも違いのひとつ。うまく表現できませんが、生徒の日常生活や将来の進路に向つて、開かれた印象がありました。めざすべきは教室空間や単位時間や数値評価の中に閉じこもってしまわない授業…

卒業生の苦笑いが思い浮かび



多賀 (倫理) 努 (H. 7~H. 10)

た以上は現在の勤務校を「ウチの学校」と呼ぶべきなのである。

一匹オオカミの多い我々の業界であってもチームプレイの精神はやはり必要で、五月・六月になつても前述の「ウチの学校」を続ける人は「新しい職場に溶け込もうとする気持ちのない」教員と

ます。理想とは程遠い実践でした。そのことは私自信が一番よくわかっています。それでも懐かしく楽しい場面がいくつも思い出されます。

「大衆の反逆」の先駆性と課題性を的確に言い当てる生徒がいたり、自己決定論をめぐる闘争が面白かった。

「大衆の反逆」の先駆性と課題性を的確に言い当てる生徒がいたり、自己決定論をめぐる闘争が面白かった。

実力養成講座の倫理の授業や倫理演習は私にとつてもいい勉強になりました。アリストテレスの「中庸」やカントの「定言命法」について「あ、そうか」と私自身の腑に落ちたのは、実は宮城野の授業の中でのことでした。

私が今いる病弱養護学校は自己決定論の演習室です。ここで経験もどこかでみなさんと話してみたいと考えています。



那須 (国語) 晃 (H. 8~H. 10)

見なされ、次第に相手にされなくなつていく。(ああ？恐ろしやん！)

もう二年が経過しようとしていますが、赴任当初以来僕にとつての「ウチの学校」は当然ながら一女高である。「前の学校では……」と喉元まで出かかるともあつたが「宮城野の常識」が「普通の

美術科卒業生の皆様へ

村田 美穂

美術科の卒業生の皆さんお元気でしょうか。

今春、はじめての美術科クラスの新生徒が巣立っていきました。二年次から突然の学科ホーム編成でしたが、色々あつてもそこは美術科生。すっかり一つにまとまつた、楽しいホームであつたと思います。ただ三回生までとは違い、担任であるが故か、はてまた干支を一回り越してしまつたせいか、私自身は生徒との「距離」を感じざるをえなかつた二年間でした。

思い返せば、一回生、二回生に対しては教員という意識はありながらも、同じ道を目指す先輩・後輩という立場で接していたような気がします。そのため普段の生活の中でも、進路のみならず学校の体制が現在の美術界が抱える問題等も、忌憚なく話してきました。今思うと、私も生徒達も、互いに学校を作つていく、という点で仲間意識があつたのだと思います。

そして三回生は、とにかく美術科らしい美術科生でした。一人一人が「個」を持ち自立心がある人達でした。

振り返ればもう5年。宮城野高校、そして美術科と共にスタートした私の教員生活ですが、生徒達に恵まれ、胸打たれる感動も多くありました。四年制に進学した一回生が社会に出る今年度は、宮城野生の真価、「自分らしさ」が問われる年だと思えます。どんな場所に居ても、「今居る場所でベストを尽くす」気持ちを持って、社会に飛び出していったほしいと思います。

そしていつの日か、「箱もの」都市といわれる仙台を交える人材、真の文化の担い手に成長しもどってきてくれたら、これ以上の喜びはないと思っています。



村田 (美術) 美穂 (H. 8.~現在まで)

学校」で通用するはずもなく、自然と静観することになる場合が多かった。

このように「変わり身が早い」ことは我々の業界ではある程度必要なことでもある。毎年四月には新入生と新任職員を迎え、三月には卒業生と転勤する同僚を送り出している。こんなことを十年以上も続けているとある意味「別れのプロ」にもなろうと言うもので、自分の心を流れる水のような状態にしておかない

「思い草」

遠藤 吉夫

みなさん、元気ですか。第一回の同窓会総会懇親会の会場で、心温まる祝福の言葉を、たくさんの方々からいただきました。どうもありがとうございます。そして今回お目にかかれなかった同窓生のみなさん、お元気ですか。次回の総会では、ぜひ再会したいものです。

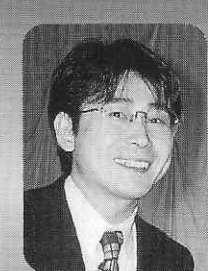
さて、懇親会会場には、宮城野現役のとき、真っ先に第一希望先に就職を決めたE子さんが来て



遠藤 吉夫 (H. 7~H. 10)

と先へ進めなくなる事になってしまふのだ。とは言え、今の自分にとって宮城野で過ごした三年間が無意味だという訳ではない。自覚はしてなくても、宮城野での経験が自分を支えてくれる時もあると思う。生徒や先生たちの記憶も時とともに薄れては行くが、みんな忘れてしまった後でも「心に残っているもの」を大切にしたいと思う時もある。いつまでも宮城野の「ウチの学校」である同窓生諸君がうらやまし

いました。現役時と変わらぬチャームングな「いで立ち」で。E子さん、覚えていますか。「スリーナインとフルコース」という私が書いた文章を。卒業して三年、E子さんはその第一希望の就職先で元気に働き続けています。買い物時に時々見かけますが、お客さんに接するときの笑顔を見ていると「ああ、今一番輝いているときを過ごしているな」と、しみじみと思います。約束であった「フルコース」も、今は「焼肉食べ放題」に化け、それも当方の勝手、延ばし延ばしになっていますが、是



大宮司 昭倫 (H. 8~現在まで)

い気もするが、僕は僕で大切なものを年々ストックし続けているのだ。君たちが「別れ」を経験する度に成長していくように。

非いつの日か実現したいと思えます。それまでますますのご活躍を。

このE子さんに限らず同窓生のみなさんがそれぞれに光輝く季節を充実して過ごしておられるようで、安心しました。またあのように二十歳前後の方々が大勢集まった同窓会は初めてだったので、その盛況ぶりにとても感激しました。八巻初代校長先生が導いてくれたものが、ここに花咲きつつあるなと実感しました。先日、現在の勤務校で離任式がありました。離任されたある先生が話された言葉を紹介しておきます。「花にはそれぞれの美しさがあります。百合の花には百合の花の、タンポポにはタンポポの美しさ。それぞれの美しさを大事にして、生きていくてください。」その先生は、壇上にあるマイクをあえて使わず、肉声で生徒に語りかけてくれました。それまでちょっとざわめいていた会場

が、シーンと静まりかえって、その先生の心の声に耳を傾けはじめたのがとても印象的でした。同日の夕刻、歓送会の場でその先生に対して万葉集の歌を送りました。「道の辺の尾花が下の思

D'sメッセージ

大宮司 昭倫

「宮城野」を巣立った卒業生諸君、今いかがお過ごしでしょうか？それぞれが自分自身で切り開いた道を試行錯誤しながら進んでいると思います。

宮城野を卒業したこと、それはどんな意味を持つのでしょうか。単なる高卒としての学歴？いやいやそんなもんじゃないはずです。みなさんはとんでもない母校「宮城野」を卒業したのでから。諸君が生活した宮城野の時代は、ひとり一人が輝く...を、何の疑いもない「性善説」を前提に進んでいました。簡単に言うと「学校で生活する人々全てを信じ、それらは常に前向きに努力と精進を怠らないはず」ということです。

そんな、全ての人の相互期待が「宮城野の自由」を支え、生徒を、教師を信頼させていたのかもしれない。

これは私と関わった事のある卒業生なら耳にした話かもしれませんが、私の教師としての目

ひ草今さらさら何か思はむ」。みなさんが、宮城野高校という尾花の下で、「思ひ草」のように美しい花を咲かせたことを本当にうれしく思います。また元気で再会できることを祈念します。

標は「生徒と共に歩む教師」です。担任としてのホーム運営はもちろん、保健や体育の授業、行事の運営、サークルの指導、進路指導、個々人との関わりなど、どの場面においてもそれを忘れないように努力しています。宮城野でのその表現方法は「生徒を信じる」ということではなかったかと思えます。生徒の可能性を信じ、よく

気持ちを理解し、行動を知らぬ間に観察し、必要な場面に援助する。生徒はそんな中で、自らの力を育み、自分で成長していく。そこにはみなさんに対する「二点のくもりのない期待」が存在しています。

さて、宮城野の卒業生諸君、あなたを信じて、期待した成果は、いつ現れるのでしょうか？今までの他の学校は在学中の生徒の行いを成果としていたのかも知れませんか。

本場の「宮城野を卒業した意味」は、これからの諸君ひとり一人の輝きによってしか量ることとはできないのです。

いつまでも、ひとり一人が輝くことを信じて、応援しています。

ホーム 阿部 雅俊

「どの高校でてるの？」

「宮城野高校です。何年前前にできた新しい…」

「へえ、あの変わった学校でしょ!」

最近の仕事場での会話。

自分が宮城野高校生という肩書きから外れて、改めてその変わった学校に通っていた楽しさを思い出し、同時にその低度しか認知されていないのか、と残念にも思った。

高校生活の思い出という

と、離れて二年程しか経っていないのに断片的にしか覚えていない。目を瞑ってものはっきりと映像が再生されない。でも楽しかった。

三年間の殆どを笑顔で過ごしていた様な気がする。生徒も先生も、個性の強い人ばかりだったので観察していて飽きなかった。在校生なのに、客観的に学校や友人を見ていた様に思う。

結果から云うと、僕は三

「感謝」 中山 利子

人は出会いによって創られるならば、私は宮城野での出会いに感謝せざるにいられません。人間的魅力に溢れる知識人としての先生方に出会いました。尊敬するおバカな友人達から多くの刺激を受けました。そして、宮城野という学校との出会いが今教育を学ぶ私を創っていると思います。

テジヤヴ 相澤 政幸

今朝、目を覚ましますと、枕もとに夏みかんが四つ置いてありました。おやおやおうそんな季節かと思ひ、夏みかんを食べ終えようと、思いきってお布団の外にとびだしてみました。季節は春酣、人の心も弾みますが、筆舌に尽くし難い思いがやがて込み上げます。「酒は飲んでも飲まれるな。」

授業の愉快 ユラウ 石田 悠子

その一・国語・那須先生
漢字の豆テストの解答用紙の余白に落書きをすると、返ってくる時絵が書き足してあった(仮面ライダーもあり)
その二・古典・大場先生
授業中の競馬の話などは要注意。未経験者も思わずやりたくなるギャンブラーを思わせる話っぷりだった。

『一人暮らし撲滅対談』

榎本久美子・大友千佳

ⓐ「まあ知ってる人もいるかもしれないけど、あたしは宮城野の同級生だった友人・榎本久美子と去年の四月から東京都狛江市にて二人暮らしをしているわけです。今日は二人暮らしをテーマにした対談って事なのよ。」
ⓑ「うちらの場合はまず何をしたらかっていうと、部屋探しじゃなくて家訓作りだったよね。『榎友家訓』ってヤツ。」
ⓒ「家訓は重要だもん。一年前に何時間も費やして全三十条作ったよな。…全然守られてないけど。」
ⓓ「つーか、友達と一緒に住む時はゴキブリ殺せる人間と一緒に住むべき。虫も殺せぬ奴とは住むな。うちら二人とも虫ダメで、夏に某少年が終電で一時間かけて退治しに来てくれたっけ。」
ⓔ「あら懐かしい。結局来てくれたはいいが、ゴキブリがどこかに消えちまって

※同窓会報第四号より題字が「蒲公英」より「たんぼ」に変わりました。

年間の中で本当にやりたい事、人生を戦っていくのに必要な武器が見つからなかった。友達の中には高校生になる前から既に見つかっている奴や在学中に見つけた奴もいて、そんな宮城野のシステムにあった人達がすごく輝いて見えたり、かっこ良く見えた。その中で自分は答えを出せなかったけど、いろいろ模索をした過程が面白く勉強になったと思う。この事実は宮城野に関わるメンツ誰一人欠けたら成立しない、と確信している。

今の自分、あの頃と相変わらずマイペースで過ごしている。周りの環境や、身体や心情を着飾る衣服は時間の経過と共に変化しているけれど、突然今の自分が出来上がった訳でなく、やはりあの頃の自分があって仲間がいたから現在の自分があると考えたいし、みんなもそう思ってくれたら嬉しい。ありがとう、そしてこれからも頑張ろう。乏しい表現力だけど、みんなに伝えたい今一番の言葉。また何年後かに今の自分を思い出して、頑張ったな、ありがとうと感謝が出来る様な日々を、これからも送っていきたいと思う。その時も、よろしく。

「時間のコト」 茂木 大作

いつの事だったのか、定かではないが、父親の故郷である秋田に帰郷した時の話だ。反抗期だった自分は、ろくに父と口をきいていなかったのだけど、親戚との挨拶をすませると夜まで酒盛りになるいつもと違い、父は小学校を見に行くからついて来てくれ。と言い、なぜだかその時、ついて来て欲しいんだな、と自然に感じ、素直に車に乗りこんだ。

小学校があったというその場所には、小さなプレハブがあり実際の校舎の姿はなかったが、父の様子は幾分いつもより興奮し、そわそわした感じで、その後中学校や、よく泳いだ川などにも行った。夕暮れ時の強い逆光で伸びた父の長い影が今でも以外な程、強く記憶に残っている。父は毎度もいっしょについて来てくれてありがとうと口

にした。気恥ずかしく、何に對して礼を言っているのか理解できなくて、誰から見ても面白くない。息子に案内しているのだから。時は、一秒刻みで確実に進んでいくが、そのまま色褪せず存在する時間が、人の気持ちの中にはあるのだから。

毎月を生活する中には、時として受け入れがたい想いや許せる気持ちになるまで時間がかかる物事もあるし、時計が刻むその様に単純ではない気がする。人は様々な想いを保留にしているものだ。

日々の時の流れは結果の連続で、今やっている事の答えを急ぎ、計画を立て、だいたいの普通は早くそれに巡り着きたいと誰しもが願う。立ち止まったり何もしていない事に焦る。日常の暮らしをいちいち楽しんで感動できればそれ

が一番なのだろうけど、なかなかそんな美味しい話にはおもしろく幸せそうに生きている人でも、本人が時間感覚に虚無感を抱いていたとしたり、やはりそれも儚ないものだったりするのかもしれない。

自覚しただいでも人は自分らしいペースで日々を過ごせるはずなのだけど、ゆっくりしたりのんびりしたりする事はいつからか感情の中で罪の部に振り分けられる様になり、成長や進化ばかりが賞賛されてしまっている。

時間は逆に戻すことはできないけれど、過ぎ去った時を溯り、愛でる事や懐かしむのは、自由にできる。

過去は以外に新鮮で、鮮やかに蘇るその思い出は、何ものにも変えがたい。たまに、そんなふうと思う。

ムダ足踏ませちゃったけど。東京は怖いっス。」

④「他に得た教訓は：食が太い奴と一緒に住むな。」

⑤「あたしも食うけどお前も食うね。昔の漫画のように茶碗に山のごとく盛ったゴハンを数杯おかわりするよな奴と住むと米がすぐなくなるしねえ。困ったもんだ。」

⑥「あたし最近そんな食ってねーよ？食う量減ったもんだ。」

⑦「まーその分、肉屋に友達がいるような奴と暮らしてるのはおいしいけどね。そういう人と一緒に住むべきだ。二万円のステーキがこないだまでゴロゴロ冷蔵庫に入ってたっけ。しかもタダ。」

⑧「そんな訳で、今から二人暮らしを考えている人は、今挙げた条件に当てはまる人と住むべきだな。」

⑨「全くです。あとは家訓以外にもテーマソング作りは大切ね。うちらは四月に二人で作詞作曲したからね。」

⑩「でもあんたこないだ二人で我が家のテーマソング歌った時後半忘れてたじゃん。マジサイテー。ひでーよ。」

⑪「申し訳ない。今からテーマソング着メロで作るからマジ勘弁……」

ムダ足踏ませちゃったけど。東京は怖いっス。」

掲示板

君も同窓会に参加しよう！
 次回の同窓会に向けて、早くも準備を始めます。スタッフになりたい方、事務局まで。同時にカメラマン・イラストレーターなどのボランティアも募集します。

支部に集合！
 同じ地域に住む同窓生どうして集まりたい。支部を開設したいというひと、事務局まで御一報を！

たんぼぼを作ろう
 第2回の同窓会誌の編集委員を随時募集。あなたのヤル気をまっています。

パーティーはどうだった？
 同窓会総会・パーティーへのご意見・ご要望がありましたら、どうぞ事務局まで。



おもしろいネタが欲しい！
 同窓会誌に載せる記事または記事のテーマを募集します。
 ・変ったことをしている同窓生
 ・同窓生どうしのステキなカップルのはなし
 ・ここがおもしろい私の職場。ここが変だよ私の大学
 などなど、同窓会に関わる事、関わらない事なんでもOK！



探偵事務所開設！

ともに青春を過ごしたのに、卒業以来連絡がとれなくなつた、そんな友達いませんか？
 同窓会が総力をあげて捜索いたします。

連絡先 同窓会探偵事務所
 宮城野高校内
 ☎〇二二二五四一七二二

同窓会費 決算報告

収入の部					
	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
会費(1800円×人数)	516,600(287)	1,027,800(571)	1,535,400(853)	1,522,800(846)	1,533,600(852)
入会金(1000円×人数)	287,000(287)	283,000(283)	286,000(286)	284,000(284)	284,000(284)
雑収入	661	2,036	3,624	55,964	36,376
計	804,261	1,312,836	1,825,024	1,862,764	1,853,976
累計	804,261	2,117,097	3,942,121	5,804,885	7,658,861

支出の部					
	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
1. 総務費			180,945	129,775	166,290
会議費					
旅費				6,106 役員旅費	9,546 役員旅費
需用費			50,505 卒業アルバム、タイムカプセル金庫	18,500 会長印代	
通信費					7,000 連絡用ハガキ
慶弔費			130,440 転退職春饗別	105,169 弔電、花環、転退職者饗別	147,324 香典、花環、転退職者饗別
雑費					2,420 納入督促切手代
2. 事業費			320,835	310,275	310,153
総会費					
会報発行費			10,245 上質紙、会報命名者謝礼	5,040 上質紙	10,080 上質紙
名簿編集費					
支部助成費					
卒業式補助費			310,590 卒業証書ケース	305,235 卒業証書ケース	300,073 卒業証書ケース
積立費					
3. 予備費					
計	0	0	501,780	440,050	476,443

収支決算					
	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
収入の部	804,261	2,117,097	3,942,121	5,303,105	6,717,031
支出の部	0	0	501,780	440,050	476,443
残額	804,261	2,117,097	3,440,341	4,863,055	6,240,588
保管(普通預金)	804,261	1,115,693	2,436,932	3,857,637	5,233,762
保管(定期預金)		1,001,404	1,003,409	1,005,418	1,006,826

監査の結果、帳簿並びに諸書類ともに、正確かつ適切に処理されていることを認めます。
 平成13年2月26日

宮城県宮城野高等学校 同窓会 高橋 文
 監事 佐野 まりか

◆お知らせ◆

三月の異動で、初代八巻校長先生(仙台南高)と第二代石田校長先生が揃ってご退任になりました。八巻先生は宮城県PTA連合会へ、石田先生は仙台育英学園高等学校へと新しい道へ……ご活躍をお祈り申し上げます。お二方には、同窓会へのご尽力に心から感謝申し上げます。

そしてこの四月より、佐沼高等学校から川村幸安校長先生をお迎えいたしました。今回の「たんぼぼ」は、第一回総会を特集いたしましたので、校長先生には次回御登場いただく予定です。

編集後記

遠く離れた相手に「ニュアンス」を伝えることは本当に難しい。その距離が抜がれば抜がるほど……。今回、たんぼぼの編集を担当した委員は、それぞれ東京、山形、岩手と各地に散らばっていた。そのため一同に会することはなかなか出来なかった。

この問題を解決するために活躍したアイテムが電話、FAX、とくに電子メールである。これらは委員どうしの情報交換にとっても役立ち、仕事をはかどらせてくれた。しかし、これらのアイテムでは

不十分なものもあった。肝心なところは、やはり直接会って意見交換が必要だった。細かい「ニュアンス」はただ一つの的確な言葉では伝えきれない。多くの無駄な言葉でしか伝えられないように思う。そうは言っても、今はもうグローバル化時代である。直接会うという機会は、どんどん作りにくいものとなっていくだろう。なんとかして現代の通信手段で「ニュアンス」を伝える工夫が必要となる。そんな時代を見据えた仕組みを作ることが、今後の課題ではないかと思うのである。

(菅原康之)